

悠久

第 42 号



日中友好卓球交流会－青島市卓球実験学校にて

本号の内容

- | | | |
|------------------------------|--------------------|----------|
| ①「医療を通じての交流」 | 岡山市日中友好協会日中医療交流委員会 | 委員長 土井章弘 |
| ②中学生国際交流研修事業 引率記 | 吉備中央町中学生国際交流研修団 | 団長 岡崎道雄 |
| ③2013 STUDENT EXCHANGE in 大連 | 岡山県立岡山朝日高等学校 | 教諭 福田 遥 |
| ④国際サマーホームステイ in OKAYAMA 2013 | 岡山市市民局国際課 | 主事 渡邊直斗 |

● *October*
2013

「医療を通じての交流」



岡山市日中友好協会日中医療交流委員会 委員長
岡山旭東病院 院長

土井章弘

私と日中友好協会とのご縁は、二〇〇七年岡山市日中友好協会の設立二十五周年記念のお祝いの席に、前片岡和男会長に誘われて参加させて頂いたのが始まりである。一九八一年の岡山市洛陽市友好都市締結以来、両市は一貫して医療衛生の分野において交流を続けてきた。その、友好関係の基に、二〇〇九年より数次に渡り中国からの医療訪問団を受け入れ、岡山大学医学部付属病院、倉敷成人病センター、岡山県精神医療センター、万成病院、岡山済生会病院、中島内科小児科医院、岡山医療福祉専門学校などを見学していただいた。また、中国からの要請もあり、二〇一〇年十二月五日から九日にかけて、日中友好医療交流促進訪問団を企画し、元岡山大学病院長森田潔院長、麻酔科准教授 溝渕知司、友好協会副会長黒住昭子、事務局長 松井三平と私で、洛陽市の洛陽中心医院を始めとする幾つかの病院を訪問させていただいた。そこで、岡山大学付属病院と洛陽中心医院との協力協定協議書調印式を締結、また、岡山旭東病院は「岡山洛陽友好病院」の称号を授与された。次いで、二〇一一年五月には、第五人民医院から医療使節団が来岡され、岡山県精神科医療センターを訪問、中島豊爾理事長との間で「医療協力協定」が結ばれた。その協定に基づいて、二〇一二年六月に洛陽中心医院から岡山旭東病院へ、脳神経外科の談華主任医師と王麗莉主任看護師が二週間の日程で研修され、医療を通じての友好的な交流が持たれた。言葉でのコミュニケーションは十分とは言えなかったが、言葉以上の心と心の触れ合いが出来たと思う。二〇一二年の秋には、岡山から医師と看護師を派遣の予定であったが、尖閣諸島の問題が発生して中止となった。そのため、二〇一三年四月十一日、十二日十三日の三日間、私と岡山県精神科医療センターの関英一医師と総務課の志茂香代子さん、協会から黒住副会長と松井事務局長が再度訪問し交流促進を話し合ってきた。その結果、

二〇一三年七月には岡山旭東病院から、脳神経外科医師（佐藤元美）と看護師（井上マサヨ）の二名による洛陽中心医院での二週間の研修が実現した。中国では大歓迎を受け、中国での病院医療の見学研修を行う中で、中国の医療も日本の医療も医師や看護師の患者さんに対する姿勢は基本的には同じであることを感じる事ができたようだ。また、医療制度や医療のやり方などでの違いを知ることができ、有益であったと感想を述べている。岡山精神医療センターからは関英一先生が三ヶ月に渡る長期の研修日程で、中国の精神科医療と中医医療を見学して帰国され、日中の医療交流がより進化するよう、中国語と日本語による『日中医療交流便覧』を執筆中である。今後とも、医療や福祉の分野での人的交流を深めていきたいと願っている。

中国の洛陽とは、遣唐使時代から馴染みが深く、私たちは、漢字や建築、律令制度など多くの文化を学び、今日に続いている。医療を含む民間の色々な分野での交流が、これからの両国に揺るぎない平和をもたらすものと期待している。本誌の名「悠久」は果てしなく続くこと、日本と中国の悠久の日中友好を願って会報誌の題にされたのだと思う。私たちの祖先、ホモサピエンスはアフリカに十三万年前に生まれ、六万年前にアフリカを出発して、全世界に広がったと言われている。ということは、日本人のルーツがアフリカで、ヨーロッパ、ユーラシア大陸、オーストラリア、南北アメリカに行く人たちと、どこかで、別れてたどり着いたのが日本。日本人だ、中国人だという前にひとり一人がかげがえのない「生命（いのち）」の絆で結ばれた「生命のリレー」を受け持つ同胞であるということになるのではないだろうか？過去から未来までの悠久の友好を願って、私たちの出来る小さなところから実践していきたいものである。



吉備中央町中学生国際交流研修団 (吉備中央町協働推進課 課長)

団長 岡 崎 道 雄

今夏、吉備中央町中学生国際交流研修団の引率者として中華人民共和国江蘇省淮安市淮安区へ訪問の機会をいただき、訪中して参りました。

吉備中央町は、本町の出身で日中友好にご尽力された岡崎嘉平太氏と淮安市ご出身の周恩来元総理の親交を基盤として相互の友好交流を推進しようと、淮安市との間に友好提携協定を締結しています。

今回で九回目となるこの中学生国際交流事業は、町にとって国際交流の一大事業ですが、今年度の事業着手に際しては、尖閣諸島をめぐる国際情勢、PM2.5の大気汚染、鳥インフルエンザ等々の気になる課題が山積で、「募集しても応募があるだろうか」「時期を少し遅らそうか」など、心配は日を増すごとに大きくなっていきしました。

しかし、そんな心配を中学生たちが振り払ってくれました。中国訪問へ大きな期待を胸に秘めた、中学生が応募してくれたのです。

結果、中学生八名と引率者四名

で訪中団を結成し、八月十九日二十五日の六泊七日で淮安へ向かうこととなりました。

出発の日は、飛行機の時間もあり早朝六時から出発式を行い、町長や議長さんから頂いた激励の言葉を胸に、いざ、岡山空港から上海浦東空港へ向かいました。出発前の情報では、中国は摂氏四十度を超える猛暑の季節とのことでしたので、心配しながら上海浦東空港へ着きました。しかし、みんなの訪中を歓迎してくれたのか、数日前から暑さが和らいだようで摂氏三十三度くらいに下がっていました。しかし、暑いのは暑い！汗が噴き出るようでした。

空港には淮安区からのお出迎えをいただきましたが、挨拶もそこそこに、迎えるバスに乗り込み、この日の宿泊地蘇州へと向かいました。中国は高速道路網の整備が急ピッチで進められていて、バスも思っていたより快適でしたが、如何せん目指す淮安までは遠く、一気に向かうには少し無理のようで、中途に、蘇州古町や楚州庭園（世界

文化遺産）の視察を挟んでいたきました。

蘇州の風景はとても素敵で、悠久の歴史に想いをはせるとともに、中国に来たことを実感した次第です。

待ちに待った淮安区に到着したのは、二日目の夕刻でした。

宿泊地のホテルに着くと「熱烈歓迎」と書かれた赤い横断幕と共に、淮安区役所の方やホームステイ家庭の方々が、温かい拍手とやさしい笑顔で迎えて下さいました。「懐かしい笑顔が」と思っていると、昨年八月の訪日団の董団長さんと副団長の咸さんでした。歓迎宴会では董副区長さんの挨拶に、「国の情勢は、かなり厳しいものがあるが、吉備中央町との民間レベルでの交流こそ継続しないとけないと思う。」との言葉がありました。中国には、様々な意見を持たれている方もいると思いますが、このように、率直なご挨拶をいただくと「草の根交流」ということの大切さを思う心がひしひしと伝わり、この絆を絶やしてはならないと感じま

した。

淮安二日目は、区内の学校の視察を行いました。中には、約六千人の生徒に教師約三百人の大規模で全寮制の学校や、「幸せな学校」を目標にゆとり教育を行いつつ、衣食住についても専門家を配置し情報教育を進める学校など各分野に高いレベルの情報を提供して優秀な人材の育成に努力していることを目の当たりにし、子供たちの教育に重きを置く強い姿勢を実感しました。

淮安三日目、この日は午前中に地元小学校での交流会が予定されていましたが、午後には淮安を離れる日でもありました。友好交流会は、周恩来紅軍小学校で行われ、小学校の子供たちが日ごろ練習している民俗芸能などを披露していただきましたが、その見事な出来栄えに訪中団のみんなから感嘆の声が聞こえました。訪中団の中学生たちは、日本で練習してきた「よさこいソーラン節」と「うらじゃ総踊り」を披露しました。日本での練習では少し不安がありましたが、大きな声、迫力のある演技を披露できました。特に、中

国の子供たちを巻き込んで一緒に踊った「うらじゃ総踊り」では、お互いに手と手を繋ぎ、大きな歓声と明るい笑顔の溢れる、とても素敵な時間を共有できたことは感激でした。この子供たちが、将来の日本と中国の懸け橋になってくれたらと願うようでした。

中学生たちは、二日間のホームステイという貴重な体験をしました。今回、お世話になった家はマンション三軒と一戸建て一軒の家庭でした。マンションはエレベーターこそ三軒中一軒しかありませんでしたが、家の中は非常に近代的で立派な造りでした。中学生たちは、ホームステイ先で熱烈的な歓迎を受けたようです。交流の方法は、もちろんお互い言葉が通じないので、パソコンの翻訳機能を使用し会話をしたり、持参した写真で話のきっかけづくりをしたり家族との交流をしたと教えてもらいました。中には、ホームステイ中の写真をアルバムにまとめプレゼントしてもらったりマクドナルドなど外食へ連れて行ってもらったり・・・数々の心温まるおもてなしを受けたようです。

いよいよ淮安の地を離れ、ホームステイの家族と別れの時を迎えると、メールアドレスや住所を交換する子、一緒に記念写真を撮る子、目に涙を浮かべいつまでも握手り合った手を放そうとしない子など本当に心から別れを惜しんでいる様子が見て取れました。バスに乗り込み、「謝謝！！謝謝！！」といつまでも大きく手を振り別れを惜しむ子供たちの姿を見ていると、二日間という短い時間ではありましたが、本当の交流ができたものと確信しました。

今回の訪中で私たちの十二名の団員は、通訳の丁さん、淮安区の陸さんお二人の女性のやさしい心のこもったおもてなしを受けました。また、交流の場で会う全ての方が私たちを大変温かく迎えてくださいました。

日本で見る報道では、日本と中国の間には様々な課題もありますが、「百聞は一見にしか

ず」と言う言葉のとおり、中国へ行き、自分の目で見て、耳で聞いて、心で感じることの大切さを感じることできた研修であったと思います。

最後になりましたが、今回この機会を与えて頂いたことに感謝するとともに、貴重な時間を共有し、共に盛り上げてくれた中学生の諸君に心からの敬意と感謝の気持ちを伝えたいと思います。



2013 STUDENT EXCHANGE in 大連

自分の肌で感じた大連

岡山県立岡山朝日高等学校
教諭 福田 遥



たため、作業を分担して解散し、スライドショー作成やダンスの振り付けなど、二度目のオリエンテーション

このたび「日中青年交流事業」(JSTUDENT EXCHANGE in 大連)訪問団として、団長の門野八洲雄先生とともに県下高校生八名の皆さんに同行させていただきました。生徒だけでなく私自身が、それまでニュースや書籍でしか知ることのできなかった中国という国を自分自身の目で見て、感じてくることができました。このような機会をいただき、心から感謝いたします。

パワーあふれる高校生8名

大連訪問の前に、結団式および二度のオリエンテーションが岡山市内で行われ、県下様々な高校からの生徒が顔を合わせた。知り合って間もない彼らがまず協力して作らなければならぬ「第一中学での出し物」。最初は、学校も学年も異なるメンバー同士の話し合いで、遠慮がちだった生徒達だが、添乗員の松岡さんに的確なアドバイスをいただきながら、徐々に全体像をつかんでいった。全員で集まれる日数が限られてい

までにそれぞれの場所で準備を進めていった。二度目のオリエンテーションになると、生徒はほぼ打ち解けた様子で、積極的にコミュニケーションを取りながら訪問への士気を高めた。前向きでパワーあふれる集団が形作られていった。

笑顔は国境を越える

いよいよ七月三十一日から八月四日までの大連・上海への訪問が実施された。大連に到着するなり、林立する建設中の高層ビルに目を奪われる。『北方の真珠』と呼ばれる大連だが、目の当たりにしたのは、発展最中の成長都市であった。

大連第一中学への訪問は、非常に刺激的なものだった。訪れた日は、ちょうど新入生オリエンテーションの真っ最中。中国は九月入学なので、入試に合格した新生たちが八月一日に集められ、入学までの一カ月を有意義に過ごすように激励されるのだそう。クラスの開きも行われており、各クラスの黒板には、新しい担任の先生から「ようこそ屯組へー!」などの熱いメッセージが掲げられていた。背筋を伸ばし、前のめりで話を聞く新入生たちには、こちらが圧倒されるほどの高い意欲が感じられた。

現地生徒との交流においては、岡山の生徒から後樂園や岡山のフルーツなどについてプレゼンテーションを行ったり、うらじゃ踊りを一緒に踊ったりした。一中の生徒からは、中国の伝統



楽器を使ったミニコンサートを披露してもらったり、習字や切り絵をホームステイのペアで伝授してもらった

りした。交流の中で印象的だったのは、第一中学の英語教諭ローラ先生による英語のミニ講座であった。授業の最初に生徒全員がbrief introduction(簡単な自己紹介)をするように促された。日本の生徒にとって英語での一分は長く、二、三文の紹介で終わろうとしてしまふのだが、一中の生徒は一分二秒、様々な話題に触れながらしゃべり続ける。生徒に尋ねると、小学校から英語の授業が毎日あり、相当訓練をしてきているそうだ。しかし驚くのはその発音や流暢さではなく、生徒の話す内容であった。中には、日中関係やその歴史について述べ始める生徒もいて目を見張った。

また、座談会も白熱し、生徒からお互いの学校生活について次々と質問が飛んだ。「日本の『部活』はどんなものなのか。」一中では、朝七時から夜八時近くまで授業があるため、放課後が三時半から始まる日本の高校をうらやましく感じ、特に「部活」という放課後の課外活動には興味があるようであった。また、日本の入試制度や教科



書の採択についてなど、日本の教育に関心がある生徒が多く、日本の大学に進学したいと考えている生徒も複数いた。

このように、それぞれ異なる環境で日々を過ごしている両国の生徒たちで、一泊二日のホームステイを終えて翌日学校に戻ってくる様子を見ると、昨日会ったとは思えないほど距離を縮めていた。そして、一泊ではあるが言語が十分に通じない環境で過ごすことは彼らにとって大きな冒険であったようだ。ある生徒は、ホストマザーは英語も日本語も通じない、自分自身はもちろん中国語はわからないという、共通言語が全くない状態になったそうだ。しかし彼女は翌日戻ってくるなり、「先生！笑顔でいれば言葉がわからなくてもちゃんと伝わりました！」と何か大きなものをつかんで帰ってきた。

自分の目で見て、

自分の意見をもつということ

そのほか、日本からの中国進出企業である倉敷化工の工場を訪問し、日本企業ならではの組織だった管理体制と、日本語を独自でマスターするほど

〈日程表〉

	月日(曜)	都市名	交通手段	時刻	行動予定	食事
1	2013年7月31日(水)	岡山 岡山 上海(浦東)	MU528	07:00 07:30 09:10 10:10	岡山空港集合 出発式 [出発] 上海浦東空港より、 リニアモーターカー乗車体験 昼食後、国内線で大連へ	→ 昼 夕
		上海(浦東) 大連	MU5621 専用車	13:50 15:45	着後、夕食。大連市内へ (大連：ホテル泊)	
2	8月1日(木)	大連	専用車	午前 午後	大連第一中学訪問 歓迎会 校内見学 昼食会 校内研修(学校プログラム) ～音楽交流・授業体験・座談会等～ 研修後、それぞれホームステイ先へ (大連：ホームステイ)	朝 昼 夕
3	8月2日(金)	大連	専用車	午前 13:00 14:00	ホームステイ先と行動 大連第一中学へ集合、 岡山県進出企業「倉敷化工」訪問 大連市内見学 (大連：ホテル泊)	朝 昼 夕
4	8月3日(土)	大連 大連 上海(浦東)	専用車 MU5624	11:35 13:25	空路、上海へ 着後、上海市内見学 上海環球金融中心、外灘など 夕食後、上海雑技団観賞 (上海：ホテル泊)	朝 昼 夕
5	8月4日(日)	上海 上海(浦東) 岡山	専用車 MU527	17:35 20:30	上海市内見学 上海博物館、豫園、豫園商場など 昼食後、浦東空港へ [帰国]	朝 昼 →



高い向上心を持って働かれています。現地の方々の様子を見学させていただいた。また、上海では地上四百九十二mの上海環球金融セン

ターに上って上海の都市を一望したり、豫園と呼ばれる日本の浅草のような商店街で、大連でお世話になったツアーガイドの愛さんに教わった、中国語での値段交渉スキルを試したりした。生徒はどんな場面でも、そこで得られる知識を一生懸命吸収しようとし、そこできかを感じられない空気を味わおうとしていた。そして何より、現地で出会えた様々な方とのやりとりを大事にし、常に感謝を表現していた。帰国後に生徒は言う。「好き、嫌い、

を先入観で決める前に、まず自分の目で見てから判断したい。」この交流を通して、生徒そして私自身も、自分が実際に関わった人々、かけてもらった言葉、受けた親切をもとに、大連や中国を思い出すことになるだろう。このかけがえのない経験は私たち一人ひとりで生き続け、それによって、将来的に日中両国の交流がさらに深いものとなり、発展していくことを信じている。

国際サマーホームステイ in OKAYAMA 2013

岡山市市民局国際課

主事 渡邊 直斗

岡山市は、世界の六都市・二地域と友好交流協定を結び、国際友好交流都市・地域として交流を行っています。国際交流や国際協力活動がますます多様化、活発化する中で、異なる歴史や文化、言葉や慣習の違いを乗り越えて、市民レベルでの相互理解と友好親善の促進に努めてきました。

様々な分野での交流を行っていますが、今回はその中でも、岡山市国際交流協議会、岡山市教育委員会との共催により実施した「国際サマーホームステイ in OKAYAMA 2013」について紹介します。

この事業は、岡山市の国際友好交流都市・地域を中心とした海外の子どもたちが、市内の家庭でのホームステイを通じて家族ぐるみによる国際交流を進め、また岡山市の同年代の子どもたちとの交流体験活動を通じて国際理解を深めるとともに、海外の子どもたちを通じて岡山の魅力在海外へ情報発信することを目的としており、平成十八年度から今年度で五回目の開催となります。

この夏は、七月二十三日（火）～二十九日（月）の日程で、洛陽市（中国）から十一名、富川市（韓国）から十名、新竹市（台湾）から十名、グアム準州（米国）から二名の中・高校生総勢三十三名が岡山市を訪問し、市内の三十家庭がホスト



歓迎交流会での様子

ファミリーとして事業に参加しました。二十四日（水）～二十六日（金）の三日間は、海外の子どもたちと岡山市の子どもたちとの交流プログラムを実施し、岡山市からは小学校六年生～高校三年生の二十九名が異なる都市・地域で構成される班に分かれて活動しました。

一日目の夜、ホストファミリーや市の国際交流事業にご協力いただいている関係者の方々のご出席のもと、歓迎交流会を開催しました。

二日目は午前中に岡山市立上道中学校を訪問しました。海外の子どもたちは日本の学校の授業風景や校舎を見学した後、上道中学校の生徒により英語での学校紹介を受けました。また、吹奏楽部・合唱部の生徒

は合奏、合唱やダンスを披露してくれました。曲目には日本の流行曲なども含まれ、海外の子どもたちは日本の同年代の子どもたちが興味を持っていることに触れる良い機会になったように思います。

その後、洛陽市は合唱、富川市はK-POPに乗せたダンス、新竹市は英語劇、グアム準州はマンドリンの弾き語りなど、海外の子どもたちも事前に準備してきた出し物を順番に披露し、会場を盛り上げました。

最後に、交流プログラムに参加した岡山市の子どもたちの司会進行により、日本の遊び「ダルマさんが転んだ」や「ドンジャanken」を紹介しました。英語での説明が難しく、



新竹市生徒による出し物の様子



ぶどう狩りでの様子

始めは遊び方がうまく伝わらないようでした。実際にやってみながらどうにか遊び方が伝わり、最後は楽しそうに遊んでいたのではとしました。

午後は果樹園を訪問し、岡山の特産品であるぶどうの収穫を体験しました。日本では多くの人がぶどうの皮を剥いて食べますが、果樹園職員の方が海外の子どもたちに尋ねたところ、皮を剥かずにそのまま食べるという声が多く聞こえたのが印象的でした。

三日目は午前中に牧場でバター作りを体験しました。ペットボトルに牛乳を入れて十五分ほどひたすら振り続けるとバターが出来上がり、ク



バター作りの様子

ラッカーと一緒にいただきました。その後、たけの森公園に移動して野外活動（飯ごう炊さんとカレー作り）を行いました。岡山市の子どもたちは事前研修会で班ごとに「ごはん係」、「かまど係」、「カレー係」の役割を決め、当日は海外の子どもたちに英語や身振り手振りを交えながらコミュニケーションを取り、カレー作りに挑みました。途中、火力が足らずご飯が炊けそうにない班が続出しましたが、どうにか出来上がったカレーライスを美味しそうに食べている姿を見ると、ひとつの目標に協力しながら取り組むことで、言葉の壁を越えて班の団結力が一気に高まったように思いました。



カレー作りの様子

四日目は岡山市中心部での班別自主活動です。前日に、各班は岡山市の子どもたちが事前研修会で計画した日程を海外の子どもたちと相談し、それぞれ一日の行動計画を立てました。友好交流サロンと岡山市立オリエント美術館、昼食会場には途中のチェックポイントとして全員立ち寄ることとしました。ショッピングセンターやゲームセンターに行った班が多く、また、ボーリングやカラオケに行った班もあり、日本の子どもたちの日常生活を経験して楽しい時間を過ごせたようです。班で決めたところを自分たちだけで回っていくことで、班の結束力を固めることが出来たようでした。



桃太郎大通りにて

五日目と六日目は海外の子どもたちはそれぞれホストファミリーと過ごした後、七日目の朝にホストファミリーが見送る中、それぞれの都市・地域へと帰って行きました。今回の事業に参加した子どもたちはこのプログラムを通じ、海外の人と交流することの楽しさ・難しさ、外国語を学ぶことの大切さ、相手のことを思い遣る気持ちなど多くのことを学びました。今回の経験は、子どもたちが成長していく中で、貴重な財産になるものと思います。岡山市では、今後も子どもたちの国際交流・国際理解を深めるための事業に積極的に取り組んで行きたいと考えます。

「夢」を実現できる40年の伝統校

旭川荘厚生専門学院

＜旭川キャンパス＞

児童福祉科
(保育コース・幼保コース)

第1看護科

〒703-8560 岡山市北区祇園866
電話 (086) 275-6846・FAX (086) 275-0018

＜吉井川キャンパス＞

介護福祉科

精神保健福祉

〒704-8126 岡山市東区西大寺浜610
電話 (086) 944-6911・FAX (086) 944-6922

<http://asahigawasou.ac.jp/gakuin/>



岡山商科大学孔子学院

21世紀はアジアの時代、中国語を学ぶ絶好のチャンスです。
中国政府認定講師による中国語講座開催中!

☆HSK3級合格を目指す長期生コース
15週学習を通じて、HSK試験(中国語能力認定試験)3級合格を目指します!
※会社や団体への出張講座、子供向けコース・太極拳コースも開講中!

・お問い合わせ／お申し込みは
岡山商科大学孔子学院 〒700-8601
岡山市北区津島京町2丁目10-1
TEL 086-252-0642(内線521) FAX 086-255-6947
<http://www.osu.ac.jp/koushi/>

出張中国語講座
新HSK試験5級をめざす
特訓コース

中国語講座(2013年度後期)
(2013年9月～2014年3月)

子供向けコース(全15回)
毎週土曜日(11:00～12:00)

太極拳コース
毎週木曜日(14:00～15:00)



学校法人 中国学園

中国学園大学

●現代生活学部人間栄養学科 ●子ども学部子ども学科 ●大学院(現代生活学研究科
子ども学研究科)

中国短期大学

●総合生活学科 ●保育学科 ●英語コミュニケーション学科
●情報ビジネス学科 ●専攻科(介護福祉専攻)

〒701-0197 岡山市北区庭瀬83番地 TEL086-293-1100 FAX086-293-3993
<http://www.cjc.ac.jp/> E-mail t-bosyu@cjc.ac.jp

学校法人 加計学園

岡山理科大学附属中学校(中高一貫コース)

ひとりひとりの能力を最大限に引き出し、伸ばすとともに、自ら学び自ら考える人間を育てる。

- スーパー選抜クラス：東大・京大・国立大学医学部等の難関大学への進学を目指します。
- 選抜クラス：国立大学・私立大学への進学を目指します。

〒700-0005 岡山市北区理大町1-1
岡山理科大学附属中学・高等学校 中高入試広報室
TEL (086) 256-8527 FAX (086) 256-8526

未来をつむぐチカラ。

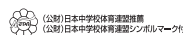
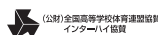


「尾崎商事株式会社」は、「菅公学生服株式会社」へ
社名変更いたしました。



菅公学生服株式会社 岡山営業所

〒701-0202 岡山県岡山市南区山田2316-28
TEL 086(292)8255 FAX 086(292)8266



カンコー学生服 価格帯 <http://kanko-gakuseifuku.co.jp/>

菅公学生服株式会社 お客様相談室 フリーコール 0120-712983 9:00~17:30/土・日・祝日除く。
※携帯電話、PHSからもご利用いただけます。

カンコー学生服は、子どもの健康と学業成就を願って学問の神様である
菅原道真公(菅公=カンコー)にちなんで名付けられました。



赤ちゃんからお年寄りまで
一人ひとりの「よく生きる」のために。



事業領域

国内教育、海外教育、生活、シニア・介護、
語学・グローバル人材教育

くわしくはホームページをご覧ください。
<http://www.benesse-hd.co.jp/>

株式会社ベネッセホールディングス

岡山本社 〒700-0807 岡山県岡山市北区南方3-7-17
東京本部 〒206-0033 東京都多摩市落合1-34

Benesseは、ラテン語の「Bene(よく)」と「esse(生きる)」を一語にした造語です。

眼鏡医療技術専門学校 ワールドオプティカルカレッジ



今年も全員就職が内定しました!

天職が見つかる「学校説明会」

11月16日(土)

12月14日(土)

13:30~16:30

ご予約は 0120(88)8233へ

高校生も社会人の方も、是非私たちの学校を見に来て下さい

資料は無料配布 随時見学できます ▶ 本校独自の特待生制度 奨学金制度があります ▶ 高校卒業生コース (3年制)
短大卒業生コース (2年制)

〒703-8282岡山市中区平井6-6-11 <http://www.woc.ac.jp> E-mail woc@woc.ac.jp

中国語を話そう!

入門、初級、中級、上級、レベルに合わせて学びます。
見学歓迎! ご一報ください。

<費用> 入学金...3,150円(消費税込)

☆協会会員・継続者は免除☆

受講料...31,500円(消費税込)/全24回

教材費...実費(2,000円~3,000円程度)

<申込方法> 申込書と、受講費用を事務局へご持参またはご送付下さい。
費用は前納にて一括納入を原則とします。

《問合せ先》

岡山中国語センター(岡山市日中友好協会内)

〒700-0902 岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル2階 TEL (086)225-5068

E-mail oknittyu@yahoo.co.jp <http://www.oka-rizhongyouxie.jp/>

おかげさまで24周年!

アジア・コミュニケーションズはあなたのツアーデスク!

- 岡山台北定期便が就航(4/3~)
- 中国東方航空は、上海へ
- 大韓航空で韓国ソウルへ、仁川空港経由で中国各地へ!
- お得なパッケージツアー(上海・台北・大連・青島・など)
- 特徴あるこだわりのツアー
シルクロード、チベット、雲南、内蒙古など
皆様のご要望に沿った旅行企画をいたします。
安心の添乗員同行ツアーです
- 日中教育交流のサポート
企画から旅行実施、添乗までサポートします。

○お気軽にお問合せ下さい



株式会社アジア・コミュニケーションズ

観光庁長官登録旅行業第1816号 ©JATA正会員 IATA公認

岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル4F(〒700-0902)

TEL (086) 231-0334 FAX (086) 222-7732

<http://www.asicom.co.jp> Eメール info@asicom.co.jp



岡山県日中教育交流協議会

岡山県日中教育交流協議会 会報 『悠久』 第42号

発行：平成25年10月

発行者：岡山県日中教育交流協議会 編集委員会

〒700-0902 岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル2階

TEL (086) 225-5083 FAX (086) 225-5041

印刷所：旭総合印刷株式会社